

## 第2回西脇市まちづくり推進審議会次第

○平成27年8月28日(金) 午後7時00分から

○西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2

### 1 開 会

### 2 市民憲章朗唱

### 3 協議等

#### (1) まちづくり活動審査部会審査報告について

#### (2) 地域自治組織の必要性

・現状分析と課題の整理

・課題解決のための組織とは

・先行自治組織の事例

#### (3) その他

まちかどミーティングでの役割について

### 4 その他

今後の予定について

#### (1) 第3回 西脇市まちづくり推進審議会

と き 平成27年9月下旬

ところ 西脇市生涯学習まちづくりセンター

#### (2) まちづくり活動審査部会

地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業の後期審査

と き 平成27年10月下旬

ところ 西脇市生涯学習まちづくりセンター

### 5 閉 会



### 西脇市民憲章

わたしたち西脇市民は

- 明朗で誠実な人になりましょう
- 健康で明るい家庭をつくりましょう
- 支えあい住みよいまちをつくりましょう
- 自然を愛し豊かな心を育てましょう
- 青少年の夢と希望を育てましょう

地区まちづくり実践補助事業企画書概要

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果・今後の展開	特記事項
<p>団体名：黒田庄地区まちづくり住民協議会                      福祉生活部会                      事業名：黒田庄地区住民主体運行「つくしバス」事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：2,790,000円                      交付要望額：2,680,000円</p>	<p>平成21年度から運行されてきた市コミュニティバス「つくしバス」が平成23年度9月末をもって運行を終了することとなった。                      終了後は、黒田庄地区と津万地区がバス交通空白地域となってしまうため、黒田庄地区の住民ポラン民協議会が主体となり、黒田庄地区の住民ポランテイアによる「つくしバス」を運行し、高齢者を中心とした交通弱者の移動手段を自らの手で維持・確保しようとするものである。</p>	<p>主に高齢者など、日常の移動に不便を来す方を対象に、月・水・金曜日の週3日間の黒田庄地区から西脇病院を結ぶ3つのルートを1日3往復している。                      運行車両については、8人乗りワゴン車2台を黒田庄地区に購入して運行し、運転も地元の住民の方に委ねていただいております。また、地域でつくる、地域に根ざした運行となつている。                      運賃については、現在は収受せず、無料での社会実験的な運行をしている。</p>	<p>事業効果                      ◇いづれの便も商業施設、病院など、主要施設を通るルート設定とし、高齢者などの交通弱者の買物、通院などの移動手段を確保できている。                      ◇高齢者の外出を促進することで、自立した生活の維持や元気づくりにもつながる。                      ◇運営の全てを地域住民が担うことにより、参画と協働の実践の場となり、地域の絆がさらに強まるとともに、市が推進する「参画と協働」のモデルケースとなる。                      今後の展開                      今後バス運行を切り口としてNPO法人を設立し、運賃を収受できるよう、市のアドバイスなどをもいただきながら所定の手続きを行い、自主独立運営に向けた取組を進めていきたいと考えており、将来的に持続可能な事業展開を目指す。</p>	<p>市のコミュニティバスの運行が終了し、住民主体運行に転換したものであるため、相当の補助が必要。</p>

平成27年4月23日

西脇市長 片山象三様

西脇市まちづくり推進審議会  
会長 直田春夫

西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結果について  
(答申)

平成27年4月15日付う～037で意見を求められたみだしのことについては、下記のとおり答申します。

記

西脇市地区まちづくり実践補助金交付規程に基づき、平成27年度前期申請（つくしバス事業）について、平成27年4月16日及び17日に当部会委員が審査した結果、次のとおりとします。

団体名	事業名	事業費	補助金額	補助率
黒田庄地区まちづくり住民会議	つくしバス事業	2,790,000	2,680,000	95,100

※ 団体の補助金等の詳細については、別紙補助充当表のとおりとします。

地区まちづくり実践補助事業企画書概要一覧表

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果・今後の展開	特記事項
<p>進協議会：西脇地区コミュニティ活動推進協議会                      事業名：西脇地区コミュニティ活動推進協議会事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：2,694,208円                      交付要望額：644,000円</p>	<p>区民によるコミュニティ活動を推進し、新しい地域的な連帯感に支えられた近隣社会をつくるため、コミュニティ活動を展開します。</p>	<p>①総務部会 コミセンだよりの発行・コミセンかわら版の発行                      ②文化部会 コミセンバスツアー コミセンまつり 区民カラオケ大会 料理教室(3回) フラダンス                      ③体育部会 グラウンドゴルフ大会 運動会 うきうきのひび健康体操                      ④環境保全部会 イルミネーション電飾 花のあるまちづくり とんど焼き                      ⑤事業運営委員会 精進ながし セントラルカーニバル</p>	<p>事業効果                      コミュニティ活動の展開により、地域内の住民相互の交流を深めることができ、日本の「とんど焼き」や「精霊流し」など、日本の伝統行事を実施することで、若い世代に引き継ぐことができるとともに、世代間交流の場ともなります。                      また、高齢化率が市内ワースト1位の地区であることから、グラウンドゴルフ大会、うきうきのひび健康体操を通じ、区民の健康づくりや介護予防の一助となり得ます。                      今後の展開                      文化・体育及びレクリエーション活動の充実と充実と明るい地域づくりを行います。</p>	
<p>団体名：西脇地区まちづくり委員会                      事業名：西脇地区まちづくり計画実践活動事業(前期分)                      実施期間：H27.4.1～H27.9.30                      事業費：1,401,240円                      交付要望額：803,000円</p>	<p>自分たちの住む地区を少しでもよくするために策定した西脇地区まちづくり計画の実現に向け、小さなことでもできることから始める。そして、活動を通じて、香濃化していくコミュニティの再生と安全で安心して住めるまちづくりを目指します。</p>	<p>①全体会 童子山公園整備、コミセンひろば整備など                      ②地区整備部会 古建築物の由來看板の補修                      ③生活・情報部会 ふれあい交流館の高齢化対策                      ④環境部会 あいさつ運動、しばざくら花遊覧車対策                      ⑤童子山わらべ海陸辺野備 花植え                      ⑥童子山スケッチ 犬のフン対策など</p>	<p>事業効果                      小さなことでもできることから始めることで、「自分たちのまちは自分たちの手でよくしていく」という自立の精神と協働の中のコミュニティの重要性を育みます。                      今後の展開                      計画実現に向け、できることから少しずつ進めていくことで、区民ひとりひとりがまちづくりに対しての達成感や充実感を共有できることを目指します。</p>	<p>童子山公園整備に関しては、市の財産である童子山を区民の手で美しくすることにより、区民をはじめ市民に身近に感じてもらう、自然に触れられる場・憩いの場・安らぎの場になることを目指しています。市のシンボルとも言葉を要求します。                      補助金を要求します。</p>
<p>団体名：活き生きTUMA協議会                      事業名：活き生きTUMA協議会事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：736,000円                      交付要望額：375,600円</p>	<p>自然に恵まれた環境を守り育て、住民が安全・安心で住み続けたいと思えるまちづくりを目指し「地区まちづくり計画」の実現に向けて事業を展開します。</p>	<p>①全体会 天神池鯉のぼり揚げ、都府乃郷あじさいまつり、西脇牛糞マラソン「へそ市」出店                      ②あじさいクラブ                      ③広報研修部会 あじさいの苗の育成・植栽                      ④広報編集部会 広報紙発行(年3回)、講演会                      ⑤生活環境部会 生活環境部会                      ⑥文化体育部会 クリーン作戦、防災講習会                      ⑦文化体育部会 八日山つつじ花見登山、朝庭の里ウォークラリー、八日山登山道整備(毎月第3日曜日)</p>	<p>事業効果                      安全・安心のまちづくりの推進                      住民の達成感の醸成                      地域の活性化                      今後の展開                      区長会等からの補助金を柱にしながらも、よ活動の中で財源を生み出す工夫をしつつ、より活発な事業展開を図っていききたいと考えています。</p>	

地区まちづくり実践補助事業企画書概要一覧表

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果・今後の展開	特記事項
<p>団体名：よいつちがうか日野の里推進協議会                      事業名：よいつちがうか日野の里推進協議会事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：853,000円                      交付要望額：441,000円</p>	<p>日野地区区長会をはじめ、日野地区内の多様な団体、グループ等が連携・協力し、日野地区住民の誰もが、安心・安全で暮らしやすいまちづくりを推進するため、必要な事業を実施します。</p>	<p>①農業体験交流 日野小学校の児童を対象に、農業体験事業を実施                      ②日野の里ふれあいフェスティバル よいつちがうか日野地区会館で活動する団体・グループを中心に、書、絵画等の作品展や発表、人権講演会等を開催                      ③秘保全事業 日野地区のシンボルである「日野の郷地蔵一本様」及び日野地区内の秘の保全と校まつりの開催                      ④子どもとまちの安全活動 子どもたちの見守り、防災活動など、地域の安全を守る活動                      ⑤腰痛予防体操 たれでも簡単にできる毎日の健康づくりを紹介                      ⑥書初め大会 小、中、高校生や一般を対象とし、1月初旬に大会を実施し、将来的には公募展につなげる計画                      ⑦広報誌発行 日野地区全世帯に、行事予定やまちの話題などを毎月発信                      ⑧まちの美化活動 ゴミ拾い等の清掃活動を行い、まちを美しく保つ取組                      ⑨元旦還拝登山 日野坂本嶽の峠で初日の出を見る                      ⑩青少年健全育成講演会 地域の宝である青少年の健全な育成を図るための講演会</p>	<p>事業効果                      地区内の各種団体が連携・協力して活動することにより、地域コミュニティの活性化を図るとともに、自分たちの地域は自分たちで守るとという意識が広がることにより、地域自治の推進が期待できます。                      今後の展開                      地域のまちづくり活動において、コミュニティデザインの手法を用いることにより、持続可能な活動を展開します。</p>	<p>秘保全事業の材料費については、地域住民の労力提供により実施する事業であるため、金額の補助をお願いいたします。</p>
<p>団体名：野村地区まちづくり推進協議会                      事業名：平成27年度まちづくり事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：3,128,000円                      交付要望額：1,029,000円</p>	<p>「野村地区まちづくり推進計画」を基に、町民全員が一致団結し、安心・安全、またお互いに励ましながら、日野地区とちよに向けて各種事業を展開します。西脇市の玄関口となり交通の便が良好であり、西側の商業施設とともに、新しい住宅の開発が進んでいること、市内だけでなく県内各地から若い力が集まっております。今年度には西脇が丘複合施設が完成することもあり、これまでの諸先輩方が築いてきた実績を無駄にすることなく、数々の行事、イベント、サークル活動、ボランティア活動を通じて、人と人のつながりによる心の交流をはじめ、「和を以て貴しとなす」の精神をモットーに、まちづくりに積極的に取り組んでいます。</p>	<p>対象者は、子どもから高齢者までとなり、野村地区の方々が一同に会しての行事・イベントを実施します。                      毎年開催事業として、球技大会（ソフトボール、バレーボール）、花いっぱい運動（年2回実施）、文化祭、秋まつり、市歌節のイルミネーション作戦を実施します。                      リーディング2年に1回開催事業として、運動会、防災訓練を実施します。                      各種サークルでは、詩吟の会、パソコン教室、気功、木工クラブ、毛筆サークル、野々蕪の会、茶道クラブが活動しています。</p>	<p>事業効果                      ①各種活動を通じて、地域住民とのつながりが保たれ、コミュニティの大切さをみんなで考えて、和を育んで絆となすことができて、支えあう心とともによりに共助の精神が芽生えます。                      今後の展開                      ①まちづくり事業の継続はもとより、常に前向きな姿勢で取り組み、担当の方々と終わるのではなく、地域住民全体が協力・調整・調和するように努力します。                      ②みんなが楽しみながら暮らしていただくための事業を展開します。                      ③各種団体が実施している活動や行事・イベントがお互いが認め合い、連携を取り合っており、この基本理念であると考えています。                      このことを継続することによって、みんなの関心とより自負の理解が得られ、考えておき、各種活動等において実践していき</p>	<p>今年度、10月には、西が丘複合施設「Miralej」が完成し、市と重音・野村地区の調整、両地区の交流及び協働が急務であり、最終段階の時期となっております。                      現在、世帯や人口が急激に増加しており、高齢者の割合でも年々増加の一途をたどっております。そこで、地域の活性化には、退故知新、高齢者の知恵と経験に基づき若年層の方々の力を結集すること、若年層と高齢者とが互いに支えあうことが必要と考えます。                      町への愛着心（郷土愛）と学園地域という特色も考慮する必要があります。                      ポラントア精神を養い、メンターになっていきます。</p>



地区まちづくり実践補助事業企画書概要一覧表

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果	事業効果・今後の展開	特記事項
<p>団体名：芳田ふれあい会議                      事業名：芳田地区まちづくり推進事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：1,575,000円                      交付要望額：795,500円</p>	<p>「芳田地区まちづくり計画の提案書（平成18年度版）」を実践推進するため、西脇市と芳田地区住民が協働し、住民自らが中心となる「ふれあい」のまちづくり活動の推進を展開してまいります。</p>	<p>芳田地区住民を対象に、次の事業を行います。                      2015芳田ふれあいまつり（10月）、角尾山登山道の整備（11月予定）、地域の自然を守る事業（きずり・おのり）（5月～7月）、芳田の里花いっぱい事業（通年） 芳田ふれあい直売所・ふれあいサロン運営（通年）、芳田クリーン作戦（2月）、芳田のつとめ（新規）、芳田地区防災訓練（2月）、子ども見守り活動の推進（通年）、芳田地区防犯に係る講演会（9月） 芳田地区防災訓練（2月）、子ども見守り活動の推進（通年）、芳田地区防犯に係る講演会（9月） 芳田地区防災訓練（2月）、子ども見守り活動の推進（通年）、芳田地区防犯に係る講演会（9月）</p>	<p>住民間の交流事業を通して、地区コミュニティの推進を図る。「安全・安心なまちづくり」をはじめ、「花のある芳田の里づくり」並びに「地域の多世代間の交流拠点づくり」の事業展開により、住民自らが明るく心豊かなまちづくりの効果を、広がりがある期待をします。</p>	<p>各種事業において、住民参加を広く求めながら、財源の一部を負担願っているが、大きな負担は求められない状況です。                      企業等が少ない芳田地区は、各種の事業に向けて自主財源の確保が大きな課題であり、現行では行政の支援が事業展開を左右すると考えられます。</p>	
<p>団体名：黒田庄地区まちづくり住民会議                      事業名：福祉送迎車運行事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：308,000円                      交付要望額：154,000円</p>	<p>黒田庄地区まちづくり住民会議が主体となる「福祉送迎車」を運行し、高齢者及び障害者の生活支援及び積極的な社会参加を促進しようとするものです。</p>	<p>西脇市黒田庄町の区域に住所を有し、かつ、居住し、身体に支障があつて、かつバスに乗車できない高齢者及び障害者であつて、事前に会員登録された方を対象に、自宅から在宅福祉サービスセンターへ送迎の送迎サービスを提供する施設又は医療機関への送り届けのみを利用する場合は、自宅と施設等の間の送迎を行ないます。                      運行車両については、車椅子でも利用できるリフト付ワゴン車で、運転は地元の方の任せていただいています。</p>	<p>高齢者及び障害者の通院などの移動手段を確保できず、高齢者の生活支援をすることができず、積極的な社会参加を容易にできません。運営のすべてを地域住民が担うことにより、参画と協働の実践の場となり、地域の絆がさらに強まるとともに、市が推進する「参画と協働」のモデルケースとなります。</p>	<p>今後の展開                      運営を受けながら所定の手続きを行い、自主独立運営に向けた取組を進めていきたいと考えており、将来的に持続可能な事業展開を目指します。</p>	
<p>団体名：黒田庄地区まちづくり住民会議                      事業名：福祉送迎車運行事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：308,000円                      交付要望額：154,000円</p>	<p>黒田庄地区まちづくり住民会議が主体となる「福祉送迎車」を運行し、高齢者及び障害者の生活支援及び積極的な社会参加を促進しようとするものです。</p>	<p>西脇市黒田庄町の区域に住所を有し、かつ、居住し、身体に支障があつて、かつバスに乗車できない高齢者及び障害者であつて、事前に会員登録された方を対象に、自宅から在宅福祉サービスセンターへ送迎の送迎サービスを提供する施設又は医療機関への送り届けのみを利用する場合は、自宅と施設等の間の送迎を行ないます。                      運行車両については、車椅子でも利用できるリフト付ワゴン車で、運転は地元の方の任せていただいています。</p>	<p>高齢者及び障害者の通院などの移動手段を確保できず、高齢者の生活支援をすることができず、積極的な社会参加を容易にできません。運営のすべてを地域住民が担うことにより、参画と協働の実践の場となり、地域の絆がさらに強まるとともに、市が推進する「参画と協働」のモデルケースとなります。</p>	<p>今後の展開                      運営を受けながら所定の手続きを行い、自主独立運営に向けた取組を進めていきたいと考えており、将来的に持続可能な事業展開を目指します。</p>	

地区まちづくり実践補助事業企画書概要一覧表

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果・今後の展開	特記事項
<p>団体名：黒田庄地区まちづくり住民会議                      黒つこふれあい広場活用実行委員会                      事業名：黒つこふれあい広場管理・イベント開催事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：170,000円                      交付要望額：75,000円</p>	<p>黒つこふれあい広場を住民が気軽に集って、日常的に活用できるように管理を行ないます。                      また、賑わいを呼び込むイベントを開催するなど、旧黒田庄町の中心部に賑わいを取り戻します。そして、「黒つこふれあい広場」の利活用と人の真いを促進し、今後に継承したいと考えています。</p>	<p>一般市民を対象に                      ① 日常的に活用できるよう、芝生の整備やブラタターの植栽管理                      ② 喜多市とあわせて黒田庄ひろら市の開催                      ③ 掲示版に黒田庄つうしん・チラシ・ポスターなどを掲示して情報発信</p>	<p>事業効果                      黒つこふれあい広場では、幼児の子守にあたるおばあちゃんやお母さんのコミュニケーションの場が期待できます。                      また、買物が楽しめるひろら市の開催や情報提供など、住民に親しみの持てる場所として定着することを願います。                      さらに、子どももアート作品の展示で多くの人が立ち寄ってくれるといった効果があります。</p> <p>今後の展開                      黒田庄地区まちづくり住民会議の黒つこふれあい広場活用実行委員会が中心となつて、黒田庄市の開催と通常の広場修繕管理を行います。また、地元ボランティアグループ、また、地元ポランテニアアフェンス利用のアーティスト作品を共同で継承し、企画しています。</p>	
<p>団体名：黒田庄地区まちづくり住民会議                      事業名：黒田庄つうしん発行事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：150,000円                      交付要望額：75,000円</p>	<p>地域住民に情報を発信することを目的に事業を行います。</p>	<p>毎日15日に広報紙「黒田庄つうしん」を2,500部発行し、黒田庄地区の全戸配布や市内公共施設に配布し、住民に情報提供します。                      実行にあたっては、原稿の提出依頼、取材、作成、校正及び印刷を行います。</p>	<p>事業効果                      「黒田庄つうしん」を黒田庄地区の全戸配布や市内公共施設に配布することにより、黒田庄地区まちづくり住民会議・各自治会・グループ情報やイベント情報などが、明確い話題を地域住民に情報発信することができま                      した。発行にあたっては、原稿の提出依頼、取材、作成、校正など、黒田庄地区の住民の協力が必要であり、多くの住民の参画と協働による地域づくりに貢献することができま                      した。</p> <p>今後の展開                      黒田庄地区まちづくり住民会議で発行にかかる経費の財源を確保し、自主財源で発行することになります。</p>	
<p>団体名：重春・野村地区交流推進委員会                      事業名：重春・野村地区交流推進委員会事業                      実施期間：H27.4.1～H28.3.31                      事業費：828,000円                      補助要望額：431,500円</p>	<p>県民交流広場事業も6年目となり最終年度となつていきます。今後の、地区住民の交流に                      おいて、より広範囲な活動を実施するため、10月の新施設オープンに合わせて自主活動を大いに進めていきたいと考えています。</p>	<p>重春地区・野村地区において諸事業を行うことにより、地区住民の交流が深まります。                      ①総務部会事業                      拠点施設移設等                      ②広報部会事業                      年4回の広報誌発行                      ③文化部会事業                      男の料理教室                      ④体育部会関係                      グラウンドゴルフ大会ほか                      ⑤環境部会事業                      矢管山ハイキング、頼政まつりほか                      ⑥その他                      「県立こどもの館」との連携事業</p>	<p>事業効果                      今秋オープンする重春・野村地区コミュニティセンターで事業を実施することにより、より多くの地区住民の参加が期待でき、交流事業がより盛んになります。</p> <p>今後の展開                      重春・野村地区コミュニティセンターで自主事業を行うことにより、両地区の負担を増やすことなく事業推進が可能となります。</p>	<p>矢管山ハイキングコースの急坂にロープ及びステップ金具を取り付け、コース利用者の安全性を高めるため、全額の補助をお願いいたします。</p>



地区まちづくり実証補助事業企画書概要一覧表

団体・事業名・事業期間・事業費	事業目的	活動内容	事業効果	特記事項
団体名：重春・野村地区交流推進委員会 事業名：重春・野村地区交流推進委員会 事業（人件費事業） 実施期間：H27.4.1～H27.10.17 事業費：330,150円 補助要望額：330,000円	事業目的 県民交流広場事業も6年目となり、残余の延長時期となります。昔が丘複合施設「Mirai e（みらいえ）」に重春・野村地区のコミュニティセンターが開設されることから、新しい施設への移行に伴う事務処理も多くなりま す。また、地区住民の新施設利用を促進するた めの準備にも職員の配置が有効となります。	事務同人権費として、活動に役立てます。	事業効果 サンキョー会館の利用及び重春・野村地区コミュニティセンターの開設において、常時駐在職員の設置により効率的に運用できま す。また、職員が常駐することにより、新施設の 諸室利用予約等の対応も可能となります。 今後の展開 新しく設置される昔が丘複合施設のコミュニ ティセンターでは、指定管理により業務を 行います。	重春・野村地区のコミュニティセンターとして、全 体的な施設の事務同人権費として、全 額の補助をお願いいたします。

平成27年 7 月 22 日

西脇市長 片 山 象 三 様

西脇市まちづくり推進審議会  
会長 直 田 春 夫

西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結果の答申に  
ついて

西脇市地区まちづくり実践補助金交付規程に基づき、平成27年度前期申請について、平成27年7月22日開催の当部会において審査した結果、下記のとおり取りまとめましたので、西脇市まちづくり推進審議会の意見として答申します。

記

団体名	事業名	事業費	補助金額	補助率
西脇地区コミュニティ活動推進協議会	体育部会	833,166	237,500	25、50
	事務局	165,200	29,000	50
	総務部会	203,000	100,700	50
	文化部会	873,700	181,500	25、50
	事業運営委員会	619,142	95,300	50
合計		2,694,208	644,000	
西脇区まちづくり委員会（前期分）	環境部会	237,720	195,720	50、100
	生活情報部会	65,000	48,000	50、100
	地区整備部会	401,280	288,780	50、100
	事務局	338,550	92,000	25、50
	川下神社夏祭	358,690	178,500	50
合計		1,401,240	803,000	
生き生きTUMA協議会	全体会	131,000	26,500	50、100
	あじさいクラブ	100,000	85,000	50、100
	広報研修部会	271,000	133,000	50
	生活環境部会	60,000	32,000	50、100
	文化体育部会	108,000	65,500	50、100
	その他事務経費	66,000	33,000	50
合計		736,000	375,000	

団体名	事業名	事業費	補助金額	補助率
よいとこちがうか 日野の里推進協議 会	農業体験交流	30,000	15,000	50
	ふれあいフェスティバル	456,000	225,000	50
	桜保全事業	43,000	39,000	50、100
	安心安全のまちづくり	93,000	46,500	50
	青少年健全育成講演会	54,000	27,000	50
	腰痛予防体操	2,000	1,000	50
	書初め大会	20,000	10,000	50
	広報誌発行	73,000	36,500	50
	美化作業	16,000	8,000	50
	遥拝登山	12,000	6,000	50
	運営費	54,000	27,000	50
合計		853,000	441,000	
野村地区まちづく り推進協議会	まちづくり推進	610,000	201,000	25、50
	運動会	675,000	56,000	50
	球技大会	238,000	41,000	50
	文化祭	240,000	40,000	50
	サークル費	100,000	32,000	25、50
	長寿いきいき費	65,000	40,000	50、100
	広報	780,000	390,000	50
	花いっぱい	70,000	70,000	100
	イベント	340,000	155,000	50
	安全対策	10,000	4,000	50
合計		3,128,000	1,029,000	
団体名	事業名	事業費	補助金額	補助率
ええまち比也野里	企画部	101,000	29,000	25、50
	美化交流部	140,000	121,500	50、100
	喫茶部	150,000	75,000	50
	観光事業部	100,000	25,000	25
	歴史部	215,000	60,000	25、50
	広報部	160,000	95,000	50、100
	コミセン事業	269,800	117,400	25、50
	比也野まつり	387,000	143,100	25、50
合計		1,522,800	666,000	

芳田ふれあい会議	代表者会議	250,000	50,000	50
	プロジェクト部会	33,000	19,000	50、100
	地域活性部会	685,000	515,000	25、50、 100
	安心・安全部会	65,000	40,000	50、100
	イベント部会	238,000	96,000	50
	各部会共通	60,000	30,000	50
	その他	40,000	20,000	50
	事務局	50,000	25,000	50
	予備費	154,000	0	0
合計		1,575,000	795,000	
黒田庄地区まちづくり住民会議	福祉送迎車運行事業	308,000	154,000	50
	黒っこふれあい広場管理イベント開催事業	170,000	75,000	50
	黒田庄つうしん発行事業	150,000	75,000	50
合計		628,000	304,000	
重春・野村地区交流推進委員会	事務局人件費	330,150	330,000	100
	総務部会事業	205,000	102,500	50
	広報部会事業	200,000	100,000	50
	文化部会事業	135,000	67,500	50
	体育部会事業	80,000	40,000	50
	環境部会事業	133,000	84,000	50、100
	その他の関係	75,000	37,000	50
合計		1,158,150	761,000	
総計		13,696,398	5,818,000	

※ 各団体の補助金等の詳細については、別紙補助充当表のとおりとする。





KITC (黒田庄テニススクラブ)  
代表 森脇陽一 (会員30名)

NPO法人みなみ会  
代表 長井泰弘 (会員190名)

事業種類	チャレンジ事業	市内全域	対象地域	市内全域	実施期間	27.4.1~ 28.3.31
事業名	予算 ¥467,000	¥300,000	要望額	¥300,000	補助対象額	¥870,000
事業目的	卓球界で知名度のある西脇市黒田庄町船町出身の西村卓二氏を週一、有名卓球選手を育てられた知識・指導力で学生たちには卓球の素直な心を育て、子ども達の素直な心を引き出すことを目的としている。また、西村氏の指導を受けられた上田南氏にも同行をいただき、世界レベルのプレーを見て、子ども達に目標を高く持ってもらう。西村氏と上田氏には、卓球にまつわる講演会を行ってほしい、努力をすれば目標を達成できるといふ努力することの大切さを伝えてもらう。					
事業内容	平成27年12月26日(土)、27日(日)に総合市民センターにおいて参加希望の小学生から高校生を対象に卓球教室、指導者講習会、卓球大会を実施予定 12/26 卓球教室、指導者講習会 12/27 卓球大会					
事業効果	小中高生を対象に、実績と指導力のある西村氏の卓球指導を通して、子ども達が素直な心や目標を持つて行動することを目指して行うこと。また、先生を対象に卓球の指導方法を基にした指導者講習を行うこと。で、青少年の健全育成に繋げる。 小中高生の卓球大会(団体戦)を行い、子ども達で考え、友達とのコミュニケーションを取りながら試合を行うことにより、友情を深め、また友達との絆が広がる。子ども達に目標を高く持ってもらう。これからの活動を通して、卓球の技術力向上はもちろろん、素直な心を持つ、人間関係を上手にできるように繋げることができ					
事業の特色	西脇市内の各学校をはじめ、近畿エリアまで要項を配布予定であるため、多くの学生を西脇市に呼び込める予定。卓球とは別に、西脇に來てもらった学生たちに西脇市の歴史や産業などを説明し、西脇市の良さを知識として得て帰ってもらうことを考えている。					
今後の展開	卓球教室や卓球大会を通して「西村卓二杯卓球大会」として定着させていく活動をしていきたい。(西村氏も今回のイベントに関して前向きで、続けてほしいとの要望がある。) 運営を担うKITC30名のメンバーが一丸となってサポートし、今回のイベントや、今後も規模を広げ、有名選手の招聘などのイベントを企画し、発展させていきたい。					

・西脇市の子どもが地域の人々によって守り受け継がれてきた自然や歴史・文化などを学ぶことを通して、暖かい人間性や豊かな教養を養い、文化・伝統の継承や、新たなまちづくりを担う人材を育成していく。  
・地域の皆様力を活用し、地域の子どもたちの未来を育む支援活動を行う。

・市内の子ども達を対象に、年間を通して、利用可能な公共施設を中心に以下のような様々な活動を行う。  
○子ども達の学習を支援する事業の実施(退職教員、兵教大の学生等の活用)  
○子ども向けの「よろず相談」事業の実施(地域人材の活用)  
○児童・生徒、教職員、保護者及び住民向けの講演会や学習会の実施  
○地域の行事や活動へ子どもが参加しやすくなるような体制づくり(学校や自治会等との連携)ほか

・学校や家庭を取り巻く環境が大きく変わっていくなかで、地域の繋がりを深め、地域をあげて子どもを育んでいく。  
・幅広い人材を活用する事で、子ども達の成長に寄与している。  
・地域社会のエネルギーを投入することで、学校・子ども・PTAとの連携のなかで、幅広い視点から子ども達の健全育成に貢献していく。  
・活動を通して、幅広く魅力あるコミュニティづくりに寄与することができる。

・様々な角度から、子どもを育むアプローチを行っていている。  
・幅広い人材を活用する事で、子ども達の成長に寄与している。  
・西脇市出身の人材を中心に講演活動等を実施することで、より身近に将来の夢や希望を子ども達に与えている。  
・地域の交流の場が広がっている。  
・文化芸術活動の充実が進められている。

・子供の成長を応援する事業の種類を増やし、規模の拡大を図っていく。  
・西脇市全体にさらに活動の場を広げ、地域の活性化を市と協力しながら行っていく。(みらいえの活用など)  
・現在取り組んでいる小中高生対象の事業拡大と深化充実を図りながら、就学前児童教育にも活動の範囲を広げていきたい。

平成27年 8 月 30 日

西脇市長 片 山 象 三 様

西脇市まちづくり推進審議会  
会長 直 田 春 夫

西脇市市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について

西脇市市民提案型まちづくり事業補助金交付規程に基づき、平成27年度申請について、平成27年7月30日開催の当部会において審査した結果、下記のとおり取りまとめましたので、まちづくり活動審査部会の意見として答申します。

記

団体名	事業名	事業費 (補助要望額)	補助金額 (補助対象額)	補助率 (%)
9 ティンカーベル	ベル演奏で西脇市をPR事業	4,720,000円 (300,000円)	300,000円 (520,000円)	6.4
9 特定非営利活動法人虹の会工房	音楽活動促進事業	350,000円 (300,000円)	300,000円 (350,000円)	85.7
0 にしわきふるさと芸術村	市制10周年記念事業 弦哲也音楽生活50周年記念コンサート～我、未だ旅の途中～共演 Coro アピカ事業	2,028,000円 (300,000円)	300,000円 (1,958,000円)	14.8
3 西脇未来予想図の会	結婚活動応援！男女の出会いと交流の場創出事業	440,000円 (300,000円)	300,000円 (300,000円)	68.2
2 TenTous (テントウズ)	西脇市図書館サポート事業	300,000円 (300,000円)	300,000円 (300,000円)	100
2 よつばのクローバー	子育て支援、コミュニティ・レストランプロジェクト起業支援事業	370,000円 (300,000円)	300,000円 (346,900円)	81.1
0 KTTC (黒田庄テーブルテニスクラブ)	西村卓二杯卓球大会・卓球教室事業	467,000円 (300,000円)	300,000円 (442,000円)	64.2
0 NPO法人みなみ会	子どもの成長を応援する事業	1,220,000円 (300,000円)	300,000円 (870,000円)	24.6
合計		9,895,000円 (2,400,000円)	2,400,000円 (5,086,900円)	

※ 各団体の補助金等の詳細については、別紙審査個票のとおり。



## 地域自治協議会に関する各地区区長会との意見交換会まとめ

### 【西脇地区】

- 地区組織の中に団体が多すぎてダブっているのので、組織を整理し、合理的に考えるべき。組織が多いと縦割りになる。町民の意見を下からあげていって決定していく組織が必要
- 町の盆踊りも年々参加者が少なくなっている。花を包んでいかなければならないのが障害になっている。参加者を減らす要因を町が作っていると思う。もっとオープンに参加できる工夫をして、それが10町全部に広がるようにまちづくりをするべき。
- 防犯・防災活動は町単位で行うのが基本である。地域の住民が自分たちで考えてやることに行政は支援する。西脇地区としてのまとまりはあるのでモデル地区としてやってみてはどうか。メリットがありデメリットもあると思うが、やってみないとわからない。  
西脇区の高齢化率をくいとめるための方策も合わせて考えていく必要がある。町内会の統合の話も一度出していただいたらどうか。

### 【津万地区】

- 活き生きTUMAの活動でも出てこないのに、このような組織をつくってみんなが参加するわけがない。活き生きTUMAを活性化させる方が先決ではないか。
- 津万地区の中でも、明日のご飯を食べるためだけに働いている人もある。それを考えるとそんな組織を作って前へ行くのかと思う。市役所もマンパワーがたりなくなってきた、自分たちがしきれないので各地区でやってくださいという話だと思う。この組織は区長会長がその組織の市長ということになると思うが、区長会長はそんな仕事を押し付けられても、とてもできない。
- この組織はやれるところからやってということであるが、やって良かったというところがあると、できない所どうなる。もう少し良く策を練っていただきたい。

### 【日野地区】

- 区長会とこの地域自治協議会との競合性が問題になってくる。地区の代表は代表区長となっているのに、別に代表ができ運営委員ができるかどうか、自分たち自身にも分からなくなってしまうのではないか。
- この協議会がなければ何もできないことはないはずだし、逆に縛りをかけられるのではないか。

- まち協を何とかししっかりした組織につくっていかうとしている中で、今までの議論とは異質である。
- 区長は2年とか4年しか務めない。長い間やっていれば、色々なことも受け止めてその人が責任を持ってやれる部分があるが、2年程度では分かったところで辞めていくようなことで、サンパル日野の会の方が関わる年数が長いため、実際にはそちらの方が上になってしまうということもあり、整合性が疑問

#### 【重春地区】

- 条例には謳っておくが、実際にはできるところから、将来困った時に適用すればよいということ。何年先かに考えていけば良いということであれば重春地区が困ったときに考えればよいのではないか。
- 町も高齢化は認識していてその時になれば何とかなるという考えで動いているわけではない。みんなが声を掛け合い、一つの目的を達成するために、活動している。若い人たちの考え方を前に出すべき。
- 町内だから活動できることでも、地区全体でとなると参加できにくい。
- 町の組織を考えていかないといけない。幹事（役員）には覚えてもらうために仕事を与えないといけない。それが区長の義務だと思う。
- イメージ図では区長会が意思決定機関と位置付けられている。当職が多く区長はこれ以上無理だと思う。区長にもっていったら何とかなるではなく、この部分は副区長にという風に、行政から振り分けてもらった方が良いのでは。

#### 【野村地区】

- 野村町は、まちづくりと町が一体化されているので、非常に恵まれていて、ある程度理想に近い形ができています。
- 野村町は非常に組織が強いから、自治会（区）が自立していなくて、区独自の活動が、他地区の各町みたいにやれていない。各町内会単位で町内会費を集められないところもあり、原資が少ないため独自の活動がやりづらい。
- 6区では高齢化率がかなりあがっていて、今後さらに高くなり、一人暮らし高齢者はさらに増えることは目に見えているので、このようなことは必要になってくると思う。
- 組織ができない地区に不公平が生じる可能性がある。市の考え方としておかしい。やれるところは活性化するが、遅れたところはどんどん遅れてくる。それよりも、弱いところへ市が入って行って、指導する方がもっと良くなると思う。あえて条例をつくって縛るということをしなくても良い。

- 町は任意の団体といわれたが、この条例ができればそうではなくなるのか。区費を集めているが、区費の徴収には強制力がないと言われていて、条例ができて組織が認められれば区費は強制的に徴収できるようになるのか。

#### 【比延地区】

- 比也野里まちづくり委員会と比延地区まちづくり協議会がそれぞれ頑張り、他地区よりまちづくり活動が進んでいると思うが、委員会と協議会の統合について調整している。まちづくりという目的は同じであるが、やり方もメンバー構成も活動状況も異なるため、部会に分けてやれば何とかなるのではないかと思う。
- 区長会が中核に座ると言っても、基本的に2年で代わっていくし、区長会として動くと言っても最終的には個人的な力量に委ねる。地区全体の事務局があるわけでもないの、それぞれの区長が分担して回らないといけないことになる。
- 住吉町は盆おどりがここ3年、4年できていない。祭も、神輿等も子どもがいないのでできない。子ども会も一応あるが活動はできない。何とか今頑張っているのが長寿会だけ。
- 中畑町では、防護柵を去年一挙に全部整備したが、次の問題は双葉小学校にどのようにして生徒を集めるかということ。この中では学校のことは触れていないが、そういうことも議論してほしいと思う。
- 町には協議費や自治会費があるが、地域自治組織の運営費が分からない。
- 鹿野町では、愛育班が30名程度活動しており、一人暮らし高齢者宅を絶えず回ってもらっているが、町だけであるのがいいのか、地区全体であるのがいいのか。
- 各町で色々な行事をやっているが、地区でやった場合、少ない人数しか参加しないのではないか。何年か前までは、敬老会も比延地区一本でしていたが、今は各町でやっている。敬老会でも地区全体でやると、参加人数も少ないし、大きな枠になったら余計人の集まりが悪くなると思う。
- 盆おどりを比延地区でやれば盛大にできると思う。

#### 【芳田地区】

- 区長は2年間何とかうまく勤め上げたいと思っている。本当はまちづくりについてもっと積極的に考えないといけないと思う。ふれあい会議で熱心に活動されている人はチームワークも取れているが、町から選抜する委員は、区長が頼みに行ってやっとならざるを得ない状態なので、自主的な参画はあまりない。住民も意識改革が必要だと思う。

そういう問題から解決していかないと、地区全体の組織としての動き

は取れないのではないか。

補完性の原則がスタートだと思うが、そのような意識を持つためにはそれなりの積み重ねがいる。基本条例は理念の問題で、現実はどうかという、乖離していると思う。

- 高齢化になれば介護が大きな問題になる。地域で何とかできるようになれば良いと思うが。
- 活動をもう一歩前進させると言えば、防犯や防災、教育に取り組むという段階の話になる。そのうち住民がどんどん年を取り、人が少なくなつて地区の組織も変わり、活動ができなくなる。5年後、10年後は変化してくる。

#### 【黒田庄地区】

- 今後高齢化が進むと介護などを行うNPOの力を借りないといけない時代になってくる。集落ごとの高齢化率の予測もしていけないといけない。
- 企業誘致をして若い者の働ける場所をつくらないと人口は減少し高齢化が進む。先のことよりも現実として今の状況が気になる。
- 独居老人が近所の者を拒否されるようでは見守りも困難。地域のきずなが薄くなっている。
- 定年退職で田舎に家を買って地域の付き合いをされるが、今まで役員もせずに高齢になってから地域にお世話になるのはどうかと思う。
- 少子化を食い止めるためには、地域で子育てをカバーするような仕組みが必要でないか。全国的に人口が減少しているので、インフラ整備をしても人口が増えるとは考えにくい。老人クラブの活性化なども必要である。
- 住民会議の組織を変更しみんなが参加でき、みんなの総意で動ける組織にしようとしているが、説明のあった地域自治組織に近いのではないか。
- 区長が意思決定機関と強調しているが、なんでも区長に持ってくるのはやめてほしい。その課題によって役割分担するべきでないか。
- 黒田庄地区がモデル地区になれるよう研究していきたい。

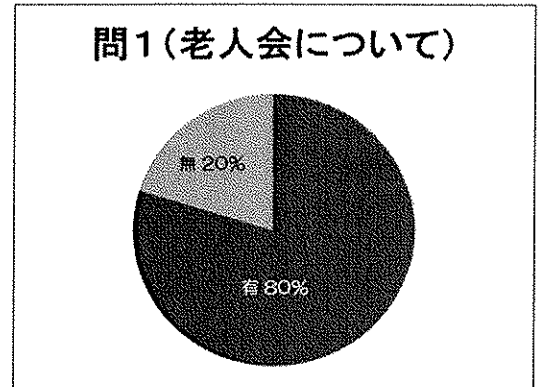
## 各種団体に関するアンケート 集計表 (西脇市全 86 自治会対象)

平成 27 年 7 月現在

### Q1 老人会について

老人会はありますか。

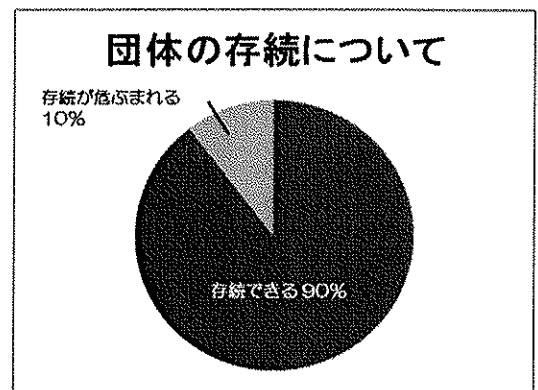
<u>回答</u>	有る	67
	無い	17
	未回答	2



### Q1 - 2 有ると答えられた場合

- ① 当分の間、現在の活動を存続できる。
  - ② 近い将来、団体の存続が危ぶまれる
- どちらかを選んでください。

<u>回答</u>	当分の間、現在の活動を存続できる	60
	近い将来、団体の存続が危ぶまれる	7



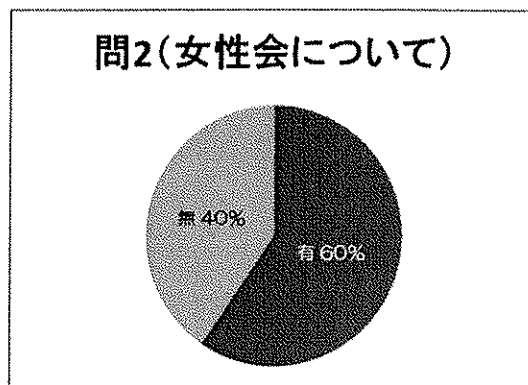
### Q1 - 3 無いと答えられた場合、なくなった理由を御記入ください。

・高齢化による役員不足のため休会中。 ・会は存続しているが、現在休会中。活動は全くしていない。 ・40年ほど前に、他町と共同で老人会を発足したが、いつからか理由はわからないが、我が町が脱退している。 ・当初から老人会は無い。 ・リーダー的存在のものがおらず、誰も会長になりたがらない。 ・老人会内において意見の対立が発生した。(昭和の終わりころ) ・会は存続しているが、近頃は老人会への入会者が減ってきている。 ・現在の会の年齢状況は75歳以上32%、80歳以上42%、85歳以上10%で、84%の高齢化である。この状況が推移すれば存続は危惧される。この事態を回避するためには若手高齢者の入会が喫緊の課題である。 ・高齢化率が低いため、自治会立ち上げ当初からない。 ・会は存続しているが、連合老人会などには参加せず、村内だけで活動している。 ・会は存続しているが、連合老人会には加入していない。会長の引き受け手がいない。老人会へは町から15万円、墓地清掃のお礼として10万円の計25万円を補助している。「若い人ほど意見をはっきり言うため、会をまとめていくのが大変である」との意見も聞いている。

## Q2 女性会（婦人会）について

女性会はありますか。

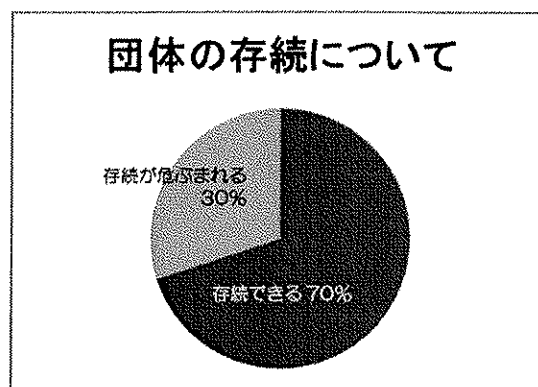
<u>回答</u>	有る	50
	無い	34
	未回答	2



### Q2-2 有ると答えられた場合

- ① 当分の間、現在の活動を存続できる。
  - ② 近い将来、団体の存続が危ぶまれる
- どちらかを選んでください。

<u>回答</u>	当分の間、現在の活動を存続できる	35
	近い将来、団体の存続が危ぶまれる	15



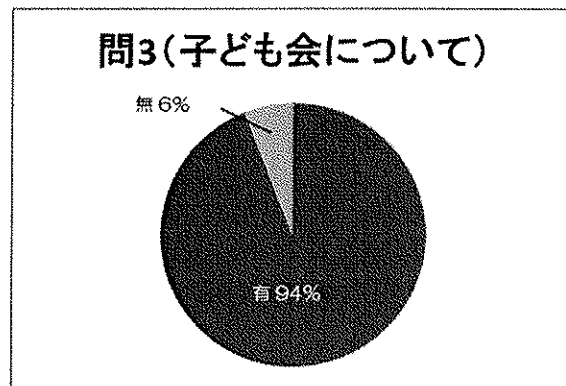
### Q2-3 無いと答えられた場合、なくなった理由を御記入ください。

- ・皆さんが仕事（勤め）をされており、加入者が減ったため。
- ・婦人部として少数で活動し、踊り等を各班持ち回りで対応している。
- ・会長、役員のみで手が無いから。サークル的なものになら参加しても良いという考えが多い。
- ・平成26年度までで廃止となった。若い世代の参加が無いから。
- ・会員は高齢者が多く行事等が出来なくなったため。
- ・会員数が減少し、存続が出来なかったため。
- ・西脇市連合婦人会の解散と共に解散した。
- ・若い世代の入会等が無くなったため。
- ・高齢化による会員数の減少、若年層の町への意識感の問題による。
- ・不要になったため。
- ・町内では愛育班として町での活動のみすることで存在しているが、市に出ていくこと、書類提出等の事務処理が女性の方が嫌になっているよう。
- ・婦人会活動が多すぎて入会する人がいなくなった。
- ・上部団体との付き合いが多く、その割にあまり成果が無いから。
- ・婦人会は無いが、町内だけで活動する、班に分かれての女性組織はある。
- ・平成17年度をもって活動を終了した。ただし、町内だけでの活動で女性部を組織している。
- ・存続はしているが、昔より規模を縮小して、最低限の活動のみ行っている。
- ・存続はしているが、集落内の行事活動のみであり、婦人班として残っている。
- ・当分は活動を存続できる。各組から2名ずつ順番に選出されているので、高齢者もいるが若い世代もいる。

### Q3 子ども会について

子ども会はありますか。

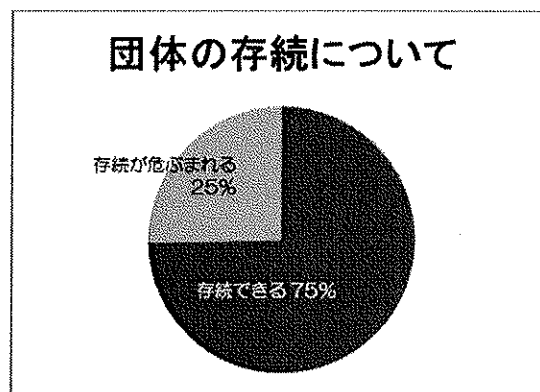
<u>回答</u>	有る	79
	無い	5
	未回答	2



#### Q3 - 2 有ると答えられた場合

- ① 当分の間、現在の活動を存続できる。
- ② 近い将来、団体の存続が危ぶまれる  
どちらかを選んでください。

<u>回答</u>	当分の間、現在の活動を存続できる	59
	近い将来、団体の存続が危ぶまれる	20



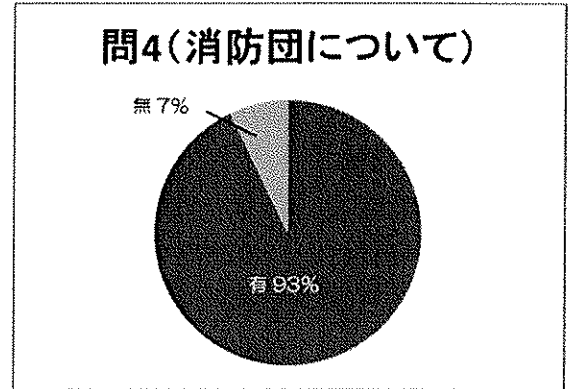
#### Q3 - 3 無いと答えられた場合、なくなった理由を御記入ください。

・10年ほど前に子どもの数が減った際に解散した。 ・子どもの数の減少のため行事等が成立しなくなったため。 ・役員の成り手、世話役がないため。 ・子どもが現在5,6名いるが、昨年度、今年度の入学生がない。 ・会は存在しているが、活動はしていない。 ・会は存続しているが、地区の子供会連絡協議会からは脱退する予定にしている。 ・子どもが現在5,6名いるが、昨年度、今年度の入学生がない。 ・他地区の子ども会に入会させてもらっている。 ・現在は存続しているが、幼稚園以下の子どもがないため存続が危ぶまれる。 ・会は存続している。「子ども会」ではなく「少年少女育成会」と称している。

Q4 消防団について

消防団はありますか。

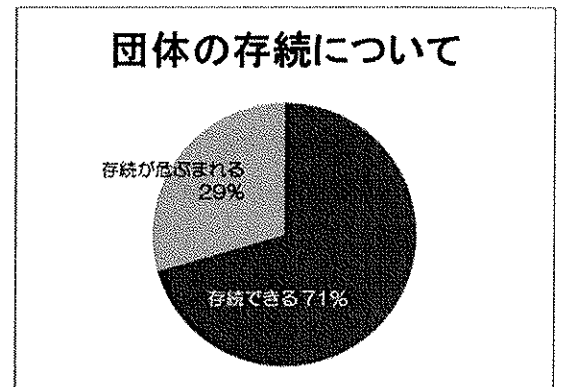
<u>回答</u>	有る	78
	無い	6
	未回答	2



Q4-2 有ると答えられた場合

- ① 当分の間、現在の活動を存続できる。
- ② 近い将来、団体の存続が危ぶまれる  
どちらかを選んでください。

<u>回答</u>	当分の間、現在の活動を存続できる	55
	近い将来、団体の存続が危ぶまれる	23



Q4-3 無いと答えられた場合、なくなった理由を御記入ください。

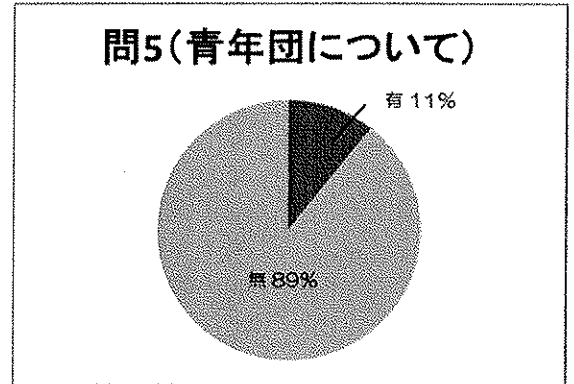
- ・60年ほど前の町発足時からない。現在他町の分団に1名入団している。
- ・消防団はあるが、若い人の入団者が少ないのが課題。
- ・団は存続しているが、人数は減少傾向にある。
- ・当分は現在の活動を存続できると思われるが、新入団員の確保が難しいため大変苦慮している。
- ・勤務先が他市の団員が多く時間的に難しくなっている。
- ・他町と合同で運営している。
- ・新入団員が少なく、近い将来近隣集落との合併も考えられる。



Q5 青年団について

青年団はありますか。

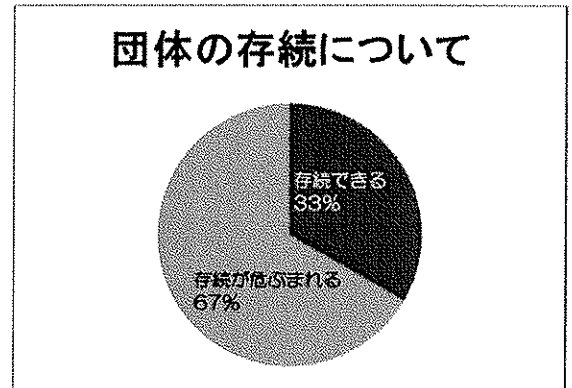
<u>回答</u>	有る	9
	無い	75
	未回答	2



Q5-2 有ると答えられた場合

- ① 当分の間、現在の活動を存続できる。
- ② 近い将来、団体の存続が危ぶまれる  
どちらかを選んでください。

<u>回答</u>	当分の間、現在の活動を存続できる	3
	近い将来、団体の存続が危ぶまれる	6



Q5-3 無いと答えられた場合、なくなった理由を御記入ください。

- ・子ども会⇒壮年会になっている。
- ・数十年間なく、なくなった理由は不明。
- ・若い人がいないため。
- ・40年ほど前に該年代の人員不足で無くなった。
- ・町の発足時からない。
- ・消防団が青年団的な役割を元から担っている。
- ・昭和30年代に自然に無くなった。
- ・公民館活動として青年部はあるが、青年団は無い。
- ・35年ほど前に無くなっている。理由は不明。
- ・入団者が数年間絶えたため。
- ・青年団活動自体の魅力がなくなってしまうため。
- ・平成26年度で解散。人がいないため。
- ・町内の若い世代の転出、市外への就労勤務のため。
- ・少子化と若者のボランティア意識の問題。
- ・必要性がなくなったため。
- ・自営業また、地場産業の衰退が大きな原因と、全ての団体活動において言えることだが、地域のために汗を流して協力する人が少なくなっている。自己中心的な人が多くなっているように思う。
- ・昭和52年ころに解散。地元に着定(生活)している団員の減少による。
- ・該当する年代(平成の若者)の仕事等での拡散(分散化)。
- ・時代の流れもあり、皆が縦の繋がり、付き合いが苦手になってきたため。
- ・構成人員の減少や就業先との関係による。
- ・構成人員の減少、活動の意義がはっきりしなくなったため。
- ・特に理由はわからないが、大学への進学などを通して地元に残るものが少なくなったことも要因と思う。
- ・人数が少なくなり、活動(祭の運営)が不可能になった。
- ・現在は無いが、地元での就職率が上がれば、発足したいとも思っている。

Q その他の団体について存続状況等をわかる範囲で御記入ください。

回答

- 老人会は会員数があっても活動できる人はごく少数になっている。子ども会も子どもの数が少ない。
- 町内会自体も他団体と同様に、人的不足により役員のみ手がなくなってきた。
- 太鼓保存会があるが、多世代で構成しているため、今のところは祭が続く限り存続させていく予定でいる。
- 「長寿会」「女性会」「子ども育成会」「消防部」は公民館（公民館長には町幹事が就任）に属する団体としている。町からは公民館に対し助成金を支出し、各種団体への配分は公民館長の責任によっている。「消防部」は勤務先（遠方）や勤務状況により非常時に出動できる団員が少ないことから、消防協力員として9名の方々にお世話をいただいている。機能別消防団員の制度があるが、当町の消防団員は公民館活動の担い手としての役割にも重点を置いているため、この制度の利用は考えていない。公民館、解散した青年団の担っていた大きな行事として秋祭り「あばれ太鼓」の練り出しがあるが、公民館の責任と負担を軽減するため、幅広い年齢層の有志による「高田井町太鼓保存会」を結成（平成10年頃）し活動している。現在の会員数は約120名。この活動を通じ、解散した青年団の役割も果たしている。
- 農会長のなり手がおらず、苦慮している。
- 愛育班は、今年から活動休止となった。

【自由意見】

回答

- 西脇区内において、他町に比べ町内会の件数が極端に少ないため、各種団体の活動が困難な状況だ。
- 町が小さいために行事は町内会一丸となって行っていく。
- 各組織とも町内での行事はそれなりに充実しているが、外向きの会議、行事等が多く、特に役員は苦勞をしている。
- 老人会を復活させるために町行政の協力をお願いしたいという意見があった。町としても協力を惜しまない。
- 何れの団体活動にしても、少子高齢化の影響が深刻になりつつある。
- 消防についてはほとんどの人が遠方に勤めに出ているため、入団者が少なくなっている。子どもの数が減っているため、太鼓に乗ってもらう子どもも少なくなってきた。
- 今は「いきいきサロン」等で集まりが多くなり、民生委員を中心に活動をされている。
- 今後、若者が地元に着しないことや、地元においても消防団へ入団しないケースが増えており、子ども会についても、少子化で子供の数が減ってきており、活動困難になっていくことが考えられる。

- 町民の人口減により、自治会活動にも支障が出てくることが予想されるので、自治会活動が転換期を迎えているのではないかと思う。
- 古くから伝わる文化や行事が無くなったり、簡素化される現象が多く見られ、それを守る団体の「ふるさと」への愛着心が薄れつつあると感じる。
- 新しい会が出来つつある。(ボランティアグループ等)
- 旭ヶ丘住宅の戸数は減少していくばかりで、築50年以上の古い建物が多い。また高齢者の独り暮らしが増え、全体の半数以上になっている。住宅も当初240軒から120軒までになった。旭ヶ丘住宅の将来性が感じられず、困っている。市の方で何とかならないか、市長と一度話し合いたいと思っている。
- 地元から通勤可能な交通手段の確保をすることで、若い人の人口増が見込めるのではないか。
- 町のあばれ太鼓には若い世代が当日田舎に沢山戻ってきてくれる。非日常的な姿や、真っ赤な顔ををして汗する姿が見ている人の心を打つ。このあばれ太鼓に男のロマンと力強さを感じ、女性にも受けている。楽な活動だけでは人は集まらないと思う。
- 自己中心型の人々が増え、他人との競合を好まなくなったような感じがする。
- 消防団への理解が少ないため、団員勧誘時に本人に会えず、親どまりの会話で終わってしまうことが多い。消防団だけでは勧誘に限界があるように感じる。また、消防活動への苦情(操法朝練のホース干しの音がうるさいなど)は消防団のみで判断できないので、一旦町の方で受けてもらうようにしてもらいたい。消防団も町内の団体の一つで、なくてはならないものなので。
- 現在、敬老会(仮称)を新たに発足すべく活動中だが、年齢の把握が難しく、民生委員に行政からの高齢者の情報伝達をしてもらうことが望ましい。
- 消防団の人員確保が困難になってきている。消防車の小型化も考えている。火事が起きても消防車で現場に行くのは2~3人という現状を見れば、専門職の充実をしていかなければと思う。
- 日本が一番重要な問題は人口減少だと考える。今回のアンケートは人口減少に対応するためのものだと思うが、人口をどうして増やしていくのかを考えることが大変重要だと思う。
- このまま高齢者が増加し、若者が減少していく西脇市。いま一度若者が西脇市という町に魅力を感じる市に変革を。
- 老人会の入会年齢が60歳となっているが、65歳にしてはどうかという意見がある。高齢化社会の到来により、60歳では未だ現役の人が多く、老人会というイメージ、活動理由が分かりにくいという意見。
- 特に消防団への入団希望者が少なく不安がある。
- 市の連合老人会について、事業計画、報告、会計報告等について厳しい又は面倒な手続きが求められている。(わずかな補助金のためにとと思われる。)このままではメリットがあまりないので脱退も考えようとの話が出ている。改善が望ましい。
- 若者の力が必要とする、魅力・活力ある西脇市にしてほしい。

- 敬老会に入会しない人が多くなったように思う。消防団についても団員の確保が難しくなっている。太鼓の保存会にしても世代交代ができない。
- 集落自治を考えると、仕事等の関係で平日開催の行事や会議などは人員確保が難しい。
- 少子高齢化により高齢者や要介護者が増え、若い世代は減り、消防団等の活動も困難ななか、色々と苦慮している。特に、災害の危険が迫る事が多いなか、未然に防げる危険には対処をお願いしたい。特に、黒田庄町の加古川西岸地域に緊急避難場所を確保してもらいたい。また、野尾谷川の全面改修を早急をお願いしたい。
- 市民提案型まちづくり事業などの支援も大変良いことだと思う。しかし小苗では地域活動推進委員会を立ち上げ、年間、グラウンドゴルフ大会、歩こう会、夏祭り、ミニ運動会、防災訓練などを、地域活性化のために実施している。そのような、地域に活力を与える、親睦を深める、共助を促進するような事業にも、多くの資金が必要になる。そのような従来型、最低今のむらづくりを存続させるようなことにも支援策を講じていただけたらと思う。

アンケートにご協力をいただきありがとうございました。

このアンケートの結果は、住民の皆様と共にこれからの自治会や町内会のあり方について考え、より良い西脇市の仕組みづくりをしていくための参考とさせていただきます。